産業は國營にすべきか



小林一三著

10せん

今日の問題社版

小林一三著

産業は國營にすべきか

今日の問題社版

目次

一、貧乏國日本……（五）
二、富國への道……（七）
三、商賣は商賣人の手で……（九）
四、貧富の懸隔……（一〇）
五、四民平等の日本……（一三）
六、出先で感じた軍備の力……（一四）
七、國富の增進と外國貿易の發展……（一六）
八、官業の拂下げに依る國債の整理……（一八）

九、國債を金融系統から民間の手に……（二一）
十、民營事業の國家管理……（二四）
十一、日本には階級鬪爭は起らない……（二七）
十二、歐米に見られぬ富豪の銀行經營……（三〇）
十三、歐米に於ける勞資の對抗……（三二）
十四、書物は事實と違ふ……（三五）
十五、資本家への利益配當の制限……（三八）

産業は國營にすべきか

小林一三

一、貧乏國日本

歐米諸國を歩いて最も痛切に感じたのは日本の富力の貧弱なことである。

日本の物質文明も隨分進歩した。段々大きな建築も出來る。道路もよくなる、立派な船も出來る、國の中にゐる間は、五大強國とか云はれて、日本も中々金持になつたものだとうぬぼれてゐたが、一度足を外國に踏み出して見て、はじめて、まだ〳〵到底問題にならないことを知つた。

善美を盡した豪華船、坦々たるドライブ・ウェイを走る高級車、ホテル、劇場――總て日本

とは段が違ふ。歐米諸國の富に較べれば、日本はあはれなる貧乏國に過ぎない。

手近な話が、私の商賣の電燈にしても、日本では電柱を使つて居て、日本國中電柱のない所はなく、銀座、丸の内の都心でさへも、電柱が林立し、電線が網の目をはつてゐるが、外國の都會は全部地下線である。カイロでさへも電柱などは見たくも見られない。無格構な電柱も、蜘蛛の巣のやうなうるさい電線もなく、街路樹が、いき〳〵と繁つて美觀をそへてゐる。地下線がいゝのはわかり切つた話、地下線にしたいのは山々だが、金がないからそれが出來なかつたのである。

電線を地下に入れなかつたのは、一つには下水設備が出來てゐなかつた爲であるが、この下水にしても、日本では、やつとこの頃、東京、大阪あたりに所々出來始めた程度であるが、外國に於ては既に古くからこれが完備してゐる。レ・ミゼラブルの活動を見た人は、ジャンバルジャンが下水口から現れるのを覺えてゐるだらう。これなども、國が富み、餘裕があつて始めて出來ることである。

私は滯歐中、各國の橋を見て歩くのを樂しみにした。どんな小さな橋にでも必ず彫刻がほどこしてあり、思はぬ所によき彫刻を發見して、興味深いものが多かつた。日本の橋で彫刻のあ

るのは日本橋の獅子ぐらゐのものではなからうか。むかうの橋は一つの立派な美術品である。丈夫でさへあればよい、渡れさへすれば結構と云ふ橋とは譯が違ふ。建築にしても、東京、大阪の建物など、外國のそれから見れば、倉庫に毛が生へたやうなものである。

以上は、單に串近な緻例に過ぎないが、赤毛布の私には、目につくもの總てに、その背後の大きな富の力が思はれて、いまさらながら、歐米諸國の偉大な經濟力、日本の貧乏が痛感せられたのである。

二、富國への道

歐米の富に較べて、こんなにも遲れた日本──我々は、先づ第一に、國の富力を充實することに努力しなければならない、一日も早く歐米の經濟力に追付かねばならぬ、私の頭からは、この一事が離れなかつた。それにはどうしたらよいか、以下私の考へた所を簡單に記してみやう。

私は、先づ、諸外國がどうして現在の富力を築きあげたか、又どうして今日の日本が出來たかを考へて見ることによつて、今後如何にすべきかの答が見出せると思ふ。

今、此處に、これを一々論ずる暇と餘白を持たないが、例へば、露西亞がシベリア鐵道を布き、各種資源を開發して、今日の基を築いたのは、莫大なる借金によつて之を行つたのであつて、佛蘭西から借りた金だけでも、今の法にして一二五〇億法と云はれる。

資源があればこそ、借金してこれを開拓することも考へられるが、資源乏しき日本にとつて借金は全く意味をなさない。このやうに、外國で成功した富國策必ずしも我國に適するものではなく、日本には、その國情に適した日本獨特の富國策でなければならない。

日本は、資源に惠まれず、棉、綿羊、鐵、石油、重要原料の大部分を輸入にまつのであるから、工業の發展と貿易の躍進によつて立つより他なく、日本が小なりとは云へ今日の富をなし得たのもこれによるのであり、今後の國富充實も、これを措いて他に方策を求め得ない。これは、最早識者一般の常識であらう。然らば、既に貿易を以て立つ以上、國際的孤立などは自ら墓穴を掘るやうなもの、我々は正に協調を以て進むべきであり、而も、國富増進の第一線に立つ者は民間でなければならない。

一國の運命に、軍備が如何に重要な役割を演ずるかは、數千年來の歴史に徴しても、弱肉強食の現實にも明かな事實、特に貿易の發展にとつて、それがどんな力になるかは私もよくこれ

を知る者である。軍備の無い日本は支那以下に見られるであらう。陸に精鋭なく、海に艦艇を持たなかつたならば、歐米に於て、我々は支那人以下に扱はれるであらう。

だが、しかし、注意すべきは、日本が外國貿易で行かねばならぬことである。徒らに強きを頼んで、我が國情の協調を以て進むべき運命にあることを忘れてはならない。

三、商賣は商賣人の手で

第一次、第二次、五ヶ年計畫の好成績の宣傳から、露西亞の計畫經濟が問題にされ、我國にも産業國營論が行はれてゐるやうであるが、資源乏しく、外國貿易でやつて行かうと云ふ日本で産業の國營を行ふなどは、全く愚にもつかぬ考へである。

露西亞の産業國營は、あの膨大な土地、豊富な資源あつて始めてやれることであつて、何處でも出來る譯のものではない。彼等は國内に無盡藏の資源を持つてゐるのであるから、どんな事でも出來る。國民の生活を犠牲にし、飢餓の境に追ひやつても、資源の開發、生産力の増大をはかることが出來る。能率も採算も無視して、思ふがまゝの計畫を押切つて行ける。

併し、これは豊かな資源あつての話、日本で眞似の出來る事でない。貿易國の日本にとつて

産業國營などは問題にならぬ。須らく民營の力によらなければならない。

もつとも各産業が、各々勝手な競爭をしてゐたのでは、不利益も多く、適當の統制は必要であり、統制省と云つたものを作つて、その間の統制をはかることは大いに結構である。併し國家は、統制、監督の範圍に止まるべきで、決して自ら手を下して經營すべきでない。仕事自身はあくまで民營でなければならぬ。國家は、統制はするが、實際の仕事は商人に委せる。商賣は商賣人がやるのでなければならない。

四、貧富の懸隔

私は他愛なく西洋の富に壓倒されて、日本の貧乏を歎いた。だが決してその前途を悲觀しては居ない。我々國民協力一致の努力により、必ずや日本を富國たらしめることが出來ると確信してゐる。而も、こゝに一つ、幸せなことがある。それは、貧富の懸隔が著しくないことである。

外國では、途法もない大富豪があつて、富者と貧者の差が甚しく、且、その間には截然たる差別待遇が行はれ、大きな社會不安を醸してゐる。

英國の富の六十餘%は、資本家中の僅か二%の人によつて所有されてゐると云はれる。この國の富の分配が如何に不公平であるかは、ロンドン市民八百萬中、土地を所有する者は四萬人に過ぎず、その最も樞要な地域が、たつた二十人の富豪によつて獨占されてゐる一事によつても知れやう。

貧富の差が甚だしいばかりでなく、兩者の間には著しい差別待遇が行はれてゐる。國民藝術大衆藝術などと云はれるが、歐洲各都市の藝術設備は、悉くブルジョワの獨占物である。ブルジョワの爲の享樂機關は、大衆を全く顧みず、金持の享樂機關と貧乏人の享樂機關とは判然と區別されてゐる。

自由平等の國、英國に於て、事の以外に最も驚いたのは、その階級的敎育制度である。中産階級の大部分、並びに下層階級の子弟は、九ケ年の義務敎育を公立學校に受け、その中の優秀なる者が、更に二、三年程度の實業學校に行く。國民の大多數は、これだけの敎育しか授けられない。中産階級の上の方の子供は、私立の小學校から、ハイ・スクールを經て、牛津、劍橋以外の大學專門學校に行くことが出來る。

上流階級では、小さい時から家庭敎師をつけ敎育し、イートン、ハロー等の上流社會獨占の

學校に寄宿生活を行ひ、更に牛津、劍橋に學ぶ。これは非常に金がかゝつて、中產階級以下の家庭では到底手が出ない。各階級の子弟は、その階級に相應した教育を受けるより他ないのである。

斯の如く、英國では、國民教育の大方針に差別待遇がある。家柄と云ふことが非常に重んぜられ、官吏、軍人等の支配階級は、これ等上流社會の占める所で、名門の出に非ざれば出世は至難である。生れると、其の時から、その身分が、判然ときまつてしまふ。自由平等の國は斷じて、自由平等ではない。

五、四民平等の日本

それに較べて日本はどうだ、誰でも高等教育を受けることが出來る。苦學しても大學迄行ける。官吏、軍人、實業家、何れの方面にも實力一つで出世が出來る。論より證據、今日、各方面の第一線に立つてゐる人々を見れば、多くは裸一貫から、身を起した人、或は單なる書生あがりの人々である。何と心強いことではないか。

外國の階級差別は、長い歷史を持ち、今日に至つては、最早その精神的改善を望むことは、

斷じて不可能である。これに反し、我々は四民平等である。實力本位である。家柄も、門閥もなく、外國に見る如き差別待遇もなく、無論、日本にも、富豪もあり、貧乏人も多い。その懸隔が小さいとは云へないだらうが、その程度は外國に比較すれば、餘程低い。

歐米諸國の貧富の懸隔は餘りにひどくなりすぎて、今から富の分配の公平を計ることは殆んど不可能、既に手遅れであるが、我國はそれが比較的に小さく、今からでも十分出來る。富の分配の公平をはかる點に於て、日本が一番やりよいのである。

これに關しては、企業配當の制限、個人所得の課税等、資本家の取り前を抑制して、富の分配の公平を期すること、そう云ふ新らしい經濟機構を作り出すことが目下の急務である。四民平等、實力本位、そしてこの新しい富の公平な分配の組織を以て、國民が協力一致して勉强するならば、必ずや日本を富國たらしめることが出來るであらう。

六、出先で感じた軍備の力

私は六十四歳になつて、初めて外國へ行つて見たのであります。國を出る時には、日本と云ふ國は世界の五大强國の一であるとか、日本の文明は歐米各國に比し遜色なしといふやうに、

聞かされて居りましたから、全くさう信じて参りました。

初めに、亜米利加へ参りました時は、唯々物質文明の弊害のみを感じましただけで、其の中に欧羅巴へ行き、各方面を歩いて見て、如何にも、日本が貧乏な國であると云ふことを痛切に感じました。同時に、其の文化の遅れて居ることも、欧米先進國に較ぶれば、或は五十年か、百年かは分りませぬが、非常に遅れて居る。これに追付くには、どうしたら宜いかといふやうなことを考へさせられたのであります。

私は若い時から、實業方面にのみ沒頭致して居つたので、政治にもうとく、軍事にも無關心でありましたが、各方面を歩いて見て、日本の海外貿易が盛大にやつてゆけるのも、外國へ出て立派なホテルに泊つて人間なみの待遇を受くるのも、是は軍國のお蔭である。若し、日本に軍備の力がなかつたならば、我々は支那人以下に取扱はれるものだと云ふやうな信念も得ました。

是は今、軍部の勢力が強いから、軍部に阿ねると云ふやうな意味でなしに、私は、すぐに感じましたから、友人にさう云ふことを書いて送りました所、それがダイヤモンドと云ふ雜誌に載つて居ります。實際、あちらを歩いて見ると、結局、人種差別と言ひますか、人種………ど

うも自ら劣等と云ふ譯にも行きませぬが、どうも日本人は總ての點に於て遲れて居るのみならず、白色人種に較べると、何んとなく見劣りがするばかりでなく、體格や何やかやどうも負けやしないかと云ふやうに悲觀するのであります。悲觀するにつれて、是は、もつと眞劍に勉强して、國を富まさなければならない、生活の向上もしなければいけない、同時に我々のアッピアランスも、もう少しレイフアインするやうにならなければならぬ、と云ふやうな細いことまで神經過敏になる。

實は、私は二人同行者を連れて參りましたので、私は御承知の通り、小さな貧弱な男でありますが、私の同行者は、體格も立派であれば、男振りも宜い、迚も好男子を連れて行つた。であるに拘らず、或る所では『お前はどこから來た、エチオピヤから來たか』と言はれて悲觀したのです。

まあ、どつちでも宜いやうなものの、あちらをづつと歩いて見ると、文化の遲れて居ると云ふことで、もう少し人種としても優等ではあらうが、アッピアランスもよくしたい。アッピアランスを宜くするには、矢張り內容の充實した生活をしなければいけない。それには、どうしても國を富ますより外に方法はないと云ふ結論を得て歸つたのであります。

七、國富の增進と外國貿易の發展

國を富ますにはどうしたらよいかと云ふ問題になると、今日までの日本を築きあげたのは外國貿易のお蔭である。國際交渉を有つたお蔭である。此の點に付ては、どなたでも異議はなからうと思ひます。

何んとならば、物資の惠れて居らない小さい島國、工業用材料も何もない貧弱な此國が世界に乘り出して貿易の力に依つて、どん〳〵伸びて行く國、移民からの送金と云ふやうなものもありますけれども、概して外國貿易のお蔭で、此處まで來たのだと云ふことは、どなたも異議はなからうと思ひます。

さう云ふことを考へると、私自身色々のことをして來ましたが、どうも外國から金を取つたためしもなく、何んだか肩身が狹いやうで、自らも外國と一つ商賣でもしてやらなければ國の爲にならないと云ふ風に、愛國的に外國進出を考へさせられる。が、どうして國を富ますかと云ふ其方法を具體的に考へると、色々ありませうが、外國人を相手に商賣をして發展するより外に途はない。卽ち貿易を主として考へると、是等の仕事は民間でやらなければならないと云

ふ結論を得て歸つたのであります。

ところが、日本へ歸つて見ると、統制經濟と云ふ聲が强くて、總てのものを國家が統制すると云ふ意味で、國家が仕事をして行かなければならない、それには多くの仕事を官營でやると云ふやうな譯で、私の說などは恐らく顧みられないと悲觀しました。

併しながら、旣に外國貿易とか、或は外國へ出て太刀打ちをして行かなければならない以上は、斯う云ふ國柄で孤立だとか、自分自身の力のみに依つて大きくなると云ふやうなことは、到底不可能であると云ふ點に注意してほしいのであります。ロシヤ又は支那、又はアメリカなどのやうな大きな國、自足自給が出來る國、物資の豐なる國ならば兎も角も、我國のやうに工業立國でありながら其の原料は外國から輸入する、どうしても外國との交涉がなければウマクゆかない國である以上は、國內だけで統制と云ふやうな簡單なことで、國の進步發展は出來ない、どうしても外國貿易のために、あらゆる努力を拂つて改良する必要がある。

其の方法の一つとして、領事の制度を變へたいといふ希望を船の中で聞かされて來たのであります。

領事と云ふ制度は、外交官になる一つの階段ださうでありますが、御承知の如く、イギリス

領事などは、同じ國に何十年も居つて、本當に自國の商賣人の代表をして居るが、日本の領事は一、二年居つて順々に代つて行くので、誠に頼りないと、各方面を歩いて見て、領事の惡口ばかり聞くのであります。これは居留民と領事とが色々考への違ふ點もあり、どちらがよいかと一概には申し兼ねますが、今日は過去を語る時ではない。將來どうすればよいかと言ふ點に就て、外國に働いてゐる人達の意見は一致したと思ひました。それは、領事館本位に立派なオフイスを建てゝ、さうして、其の領事は商賣人の話相手になり、そこには日本の商品の見本が陳列されてあつて、立派に日本の貿易を統制する。今までのやうな無謀の競爭などを止めて、指導性を有つた領事館が欲しいと云ふやうな意見も聞いて參りました。

八、官業の拂下げに依る國債の整理

之は至極御尤だと思つて、其の輿論なるものを取繼ぎをするだけでありますが、どうしても外國貿易を盛んにならしむる前提としては、非常に大きな問題、それは今の財政方針であつて赤字公債を連續して、これから當分の中毎年何億の公債を出して、それから軍備の充實をして行くべきものである以上は豫定の如く、赤字公債を出しても、世界に對して其の健實性を認め

させるやうにするのみならず、國內に於ても、國民をして安心せしむる良い方法があれば、其の方法も特に考へる必要があると考へて歸つて參りまするど、是も今日の輿論では、反對であるやうに承つて居りますが、私は、此の十二年度の豫算を組む時には、赤字公債が五億あるか七億あるか知りませぬが、その增發する公債と、略同額の公債を直ぐに消却する方法を考へたら宜いだらう。それは何んであるかと申しますと、差當つて、日本製鐵の株券を民間に賣り出す、滿鐵の株券を民間に賣り出すことである。此の二つの會社の株券を賣り出したならば、恐らく五億圓に近いものは直ちに得られませう。

國家が統制する權利を有つて居る以上は、その會社の株式を過半數有たなければならぬと云ふ理由はなからうと思ひます。唯、當初滿鐵を創立する時、或は製鐵所を拂下げねばならぬ時一時の便宜の方法として、國家が多數の株券を有つと云ふことは、其の會社の設立を容易ならしむる理由であつて、國家が過半數を有つに非ざれば、此の事業が巧く行かないと云ふ議論にはならないと思ひます。

日本銀行を御覽になつても、或は正金銀行を御覽になつても、御諒解になる如く、國家が之を統制する權力がありさへすれば、國家の思ふ通りになるのでありますから、此の種の株式は

民間にお賣りになることを希望する。

尚此外にも東洋拓殖もあれば色々の會社があります。彼是れ十種類位ありませう。さう云ふものを順次に民間にお賣りになる、民間では是を引取つて、民官の企業として盛んに經營し得るので、事業は發展し得るのであります。

さうして、一方ではその得たる資金によつて、公債を償却し、一方では赤字公債を發行して行く。もう一つ進んで云へば、商賣に關する總ての事業は、之を民間に拂ひ下げる。煙草の專賣も宜いでせう。樟腦の專賣も宜いでせう。寧ろ進んで電話も民間に移したらどうかと思ひます。

電話などは、外國を歩いて見ると實に安く簡單に出來て居ります。申込めば直ぐに付けて與れます。さうして其の取付料金は五圓か十圓の保證料を出せば、付けて與れるのみならず、もう要らないと言へば、其の金を返して與れると云ふ風になつて居る。日本のやうに權利がついて居つて、多額の權利金を支拂ふと云ふ具合にやつて居る國は、歐米先進國にはないのであります。若し、電話を民間に拂下げるとすれば、立ち所ろに十億近い金を國家は得ることが出來るでせう。

さう云ふ風にして、鐵道まで拂下げるとすると、是は容易ならざる澤山の金になりますが、財政を堅固にすると云ふ大方針から云へば、總て此の際、斯う云ふものを民營に移す、民營に移せば、どの位事業界が繁昌するか知れません。

凡そ、世の中の危險思想とか、不安の狀態と云ふものは、國民の誰れにでも仕事を與へることの出來ないと云ふことも一つの原因であります。若し、今日の國營事業を民間に渡すとすれば、どんなにか仕事が多くなるでせうか。

煙草專賣は、昨今國家の收益が二億何萬圓かあるさうです。今世界の何處を歩いても、日本のパツトと云ふ煙草が非常に珍重されて居ります。私は不幸にしてか、幸ひにしてか煙草を好みません。ですから、どう云ふ煙草であるか之を說明することは出來ませんが、何處の國へ行つても、日本のパツトと云ふ煙草は、愛玩されて居るさうです。恰度、我國が棉を買つて、綿布、綿絲を世界に輸出する如く、煙草も、若し民營でやつたならば、或ひは輸出品の重要なものになるのではないだらうか。さう云ふやうに考へて見ると、是から先きに何十億の赤字公債を出すものとしても、先づ此處を一時期として、國家が思ひ切つて何十億の公債を償却して、然る後に出すべきものではないだらうかと思ひます。

九、國債を金融系統から民間の手に

この外に未だ有力なる理由があります。御承知のやうに、日本の公債所有者は誠に筋が違つて居る。例へば、只今日本の發行して居る公債は、彼是れ百億圓ありませう。百億圓の中の九割、即ち九十億近い公債は誰れが持つて居るかと云へば、金融資本系統が持つて居るのであります。最近の統計は、三月末の新聞の記事に依りますと、三月末に各銀行の持つて居る公債は約六十六億圓であります。其の他に保險會社、信託會社、政府の預金部と云ふやうな、金融資本系統の持つて居る公債が、九十億近くあるものとすれば、是が非常に日本の財界に於ける癌になつて居るのではなからうかと思ひます。

凡そ、低金利政策と云ふものは、其の國の實力、其の國の富の程度に依つて、自ら決まるべきものであります。公債を發行し、今のやうなオペレーションに依つて、やり得る時代も勿論ありますけれども、歸着するところは、國の實力であります。此の點に於て、日本の金融資本系統が公債を九割持つて居るのであるが、此の前途はどうなるでせうか。

若し、低金利政策に一寸でも罅が入り、一寸でも不安があつたならば、公債の暴落は免れま

せん。此の低金利政策の維持出來る、維持出來んと云ふことよりも、此の不安狀態が金融資本系統に響いたならば、容易ならざる恐慌ではないでせうか。だから、斯う云ふ一つの危險は、早く去るのが宜しいのであります。成るべく償却をして、さうして是等の公債の募集の方法は外國の例に依るのが宜しいと思ひます。御承知の如く、イギリスにしても、フランスにしても公債は國民が持つことになつて居る。また之を賣出す方法についても、非常に努力して居るのでありまして、恰度、勸業銀行が勸業債券を賣るが如く、大いに働いて居ります。

自分の銀行の得意先きの預金と振替へて、公債を持たせる、そして其公債を持たせた上に、至れり盡せりに世話をしてゐるのであります。

然るに、日本の金融資本系統と云ふものは、公債を賣ると云ふことは少しも考へない。

何故かと云ふと、之を日本銀行へ持つて行く時は、公債でなければ日本銀行が歡迎しない。勿論、他の有價證券も持つて行つても、通用しないことはないのであります。しかし、他の有價證券を持つて行くと云ふことは、其の金融資本系統の恥辱である。其の銀行の鼎の輕重を問はれるがために、何人も公債ならば借金をするが、其の外のものは持つて行かないと云ふのが今日の狀態になつて居ります。是は日本銀行の營業方針も、當然變へるべき時期が來て居るや

うに思ひます。同時に、金融資本系統が公債でないものに對しても、投資するやうになるやうになる。そこに研究的態度が生れて、事業界は繁昌すると思ひます。

卽ち、斯の如くして、新しい幾多の事業が、政府の手から離れて民間に移つて來る時には、世の中の景氣が良くなり、仕事の分量が殖えるのみならず、銀行の營業方針が自ら變る、銀行の方針が變ることとは、國家のため非常に有益であり、必要であると信じます。

現在の如く、財閥が銀行を經營するところに、我國財界の無理があるので、これは必ず近き將來に於て、形を變へるべき時代が來ると思ひます。委しい話はあとから財閥の前途といふところでお話するつもりでありますから、省略しまして、この官營事業を民營にするために、金融資本系統の組織を有利に轉刎するので一擧兩得だと考へて居ります。

十、民營事業の國家管理

そして、民營事業を盛んにして、一方では、それ等の事業を政府が統制管理する。現在では政府は當然管理し得べきことすらも、放任して管理しないのみならず、自ら統制を亂して、事業界を攪亂してゐる。この混亂狀態を見て、これを匡正する途は、官營によるにあらざれば、

駄目だ、自由競爭にやらせるとかくの如き不始末だと言ふのであります。

私は現在に於てすらも政府が與へられたる權能に於て統制するならば、もつとウマクゆくものと信じてゐる。英吉利の統制ぶりを見ますと、實に羨ましいと思ふ。全體、イギリスと云ふ國は、默つて總ての物を統制して居るのでありまして、一例を擧げて見ますと、其の交通機關に於ては、安く乘り得る人、一番安いのを好む人は、地下鐵へ乘れ、それから少し高く出しても宜い人は、バスに乘れ、もつと出し得る人は、タクシイーへ乘れ、と、ちやんと區別してあります。

而も、其のタクシーなどは、非常に高いのでありまして、また、タクシーの運轉手にも日本のやうに、誰でも願書を出しさへすれば、許すと云ふやうな亂暴なことはありませぬ。長く交通業に從事して居て、さうして、年配になつて多少貯金が出來たといふ人、あちらには、會社の退職金だとか、慰勞金だとかそういふものは無いそうです、年配になつて、少し金が出來て停年だからといふやうな人が最も多いです。ですから、頭の白いおぢいさんが、自分で車を買つて、さうして、タクシーを運轉する。是は、ドイツなどもさうです。日本のやうに、血氣盛りの若いものがタクシーなどを運轉して居りませぬ。皆な統制をして居るのであります。

然るに、日本の如きはどうであるかと云ふと、誰れでもやらせて、其の多くは競争倒れになつてゐる

市の財政から云へば、電鐵は一年に何百萬の缺損をして居るが、其の缺損を承知の上か、内務省か警視廳か何處かは知りませんが、各方面の私立會社にパスを許可して居る。其のパスは儲かる所は二割も三割も儲けて居るさうです。さうして、其の道路の使用料と云ふものは一文も拂はない。修繕費も拂はない。市は默つて其の道路を修繕し、さうして、一方では自分のバスも運轉して競爭して居る。凡そ、斯くの如き不統制で何事が出來ませうか。

斯う云ふやうな統制こそ、無論必要であります。色々の二重設備、無暴の競爭、此の種のことは、政府が統制すべきでありますが、それを放任して置いて自由競爭の弊害のみを論ずるのは、間違つて居ると思ひます。

私は英吉利に於ける、電力送電線の國營統制を研究に參つたのでありますが、こゝでは自分の專門の問題には觸れませぬ。英國は、あらゆるものを統制してゐるさうでありますが、ちよつと、こちらへ歸る途すがら、香港に立寄りました。所が、香港の港は御承知の如く、其處に相對して居る九龍との間に、渡船があります。此の渡船が上甲板が十錢で、船の中へ入ると五

錢、是が絶えず渡つて居るのでありますが、あの大きな港の中に、渡船としては個人の營業を許さない。唯だ一ツの渡船に統制せしめて居る。其の代りに、其の渡船から取る税金は、香港のお金で四十一萬圓、日本の金で丁度八十萬圓取上げるさうです。この八十萬圓は半期の税金であつたか、一年であつたか、つい聞き漏したが、兎に角、さう云ふやうな工合に統制をしてのであります。

門司へ來ると、中々さうは行かない。勝手に色々な船が、營業をして居るのであります。便利から言へば、色々の船が自由自在に營業する方が、便利が宜いでせうが、それでは收入が少ない。それよりも、儲けさして取らうと云ふ、斯う云ふ英吉利流が、非常に宜いやうに考へます。さう云ふ風にすべて國家が統制して無駄のないやうにする。そうして國民をして、一生懸命になつて働かせる。古い文句でありますが、富國强兵を目的として、國力を外國に負けないやうにすると主張したのであります。

十一、日本には階級鬪爭は起らない

そこで、問題は近頃の流行言葉で言へば、さう云ふやうなことをすると徒らに財閥の腹を肥

やすのみで、現代思想には不向きではないか、我々は、寧ろ財閥の暴利を公平に訂正したい、……之を何と言ひますか、貧富の懸隔をなくなす爲めに、個人には百萬圓以上の財産は持たせないとか、或は私有財産に制限を加へるとか、いろ〳〵の議論があるやうに承つて居りますが是亦非常な誤であつて、日本には外國で言ふやうな、財産家といふものは無いかもしれない。それは財産家と目せられる日本の財閥なるものは、外國とは其の性質が全然異つてゐるのであります。

外國に於ける貧富の差の多いこと、差別待遇が甚しいこと、階級制度が封建時代の如く嚴として存在して居つて、下級階級の子は中流以上の學校に入れない。敎育も制限されて居ると云ふやうな貧に情ない狀態であること、之を御話するとまた長くなりますから、是は一切省略しまして、其の結論だけを申上げます。

さう云ふ工合であるから、勞資協調とか云ふことは斷じて出來ない。强者と弱者と、金持と貧乏人の對立、この對立をどうしてやるかと言へば、露西亞の革命の如く、力に依つて倒すか、然らざれば、獨逸或は伊太利のやうな、統制に依つて曲りなりにも現狀を維持して行くかと云ふやうな、情ない情態になるのでありますが、幸に、日本は階級制度が少しもない。私達

同一階級の多くの人達は、──尤もお若い人々は其處迄行きませぬが──、我々の中では、百人の中、九十五人迄は、私共同樣な成上がりものでありまして、到底、歐米のやうな封建的の閥とは違ふのでありますから、私は此の意味に於て、日本にはまだ富豪とか財閥なんと云ふものは、ないと考へて居ります。

世間では、いざと云ふと、三井、三菱、住友、安田、私は是等は財閥なんと云つてイヂめるのは可愛想だと思つて居る。何故となれば、現在の制度が維持されて居る間の、極くはかない運命の下に居る一ツの團體であつて、外國のやうな金持でも何でもない。何故かと云ふと、日本の金融資本閥を中心にして居る、此の種の御連中は、銀行や、信託に於て十億圓以上の預り金をして居る。是等の銀行または信託會社は、實に立派な會社であり、外國には却つてこれ程立派なものはない。これは全責任を負擔する個人經營であるから、どうしても手堅く營業してゐる。信用を重んじて少しも無理をしない、立派な銀行であり、信託會社であるが、外國のそれとは其組織が全然違つてゐる。外國の資本家は、銀行といふやうな他人の金をあつめて、金貸をするといふが如く、危險のことはやらない。元來、銀行といふ商賣は、平穩無事の時は、なんでもないが、其國情に變化があつたり、思想的の動機が何か具體的に現はれて事變が起つ

たとすれば、貸した金などと云ふものは、回收の出來るものではない。個人に百萬圓以上の財產は有たせないと、斯う云つて片附けられたら、株式で銀行から借金してゐる人は、返濟は出來ないでせう。

丁度、十五銀行にしても、或は潰れた銀行を御覽になればお分りになりますが、藤田銀行でも加島銀行でも、閉店してゐる間はそれ程わるくないにしても、閉店すると債權がとれなくて結局清算事務に入つて、缺損になるにきまつてゐる。銀行や會社は、閉店になると、債權と云ふものは取れるものでないので、此の三井、三菱、住友、安田と云ふやうな立派な日本の中心になつて居る金融資本閥でも、現狀維持とか、此の組織が保たれてゐる間で、……共產へ行くと云ふと、外國の金持なんと云ふものはそんな馬鹿なことはない。

十二、歐米に見られぬ富豪の銀行經營

日本ではお金持になると、銀行營業をやる。是は田舍へ行くと、百姓がお金が出來ると土藏を作ると同じやうな意味で、皆銀行をやつて居る。昭和二年以來の經驗から見て、非常な失敗であつたと云ふことを考へて居るに違ひない。併し、乘りかゝつた船と言ひますか、やりかけ

た仕事である。現代思想の上から見て、凡そ金持が銀行を有つて、維持出來る理窟はない。昔北條家は從五位しか望みませぬ。公卿樣は祿高が少ない代りに從一位正一位と隨分高い。それでよいのである。然るに、金持が金を有つて金貸をすると云ふのであるから、利益を取つた上に威張つてゐる、この位危險なことはないのであります、

人間には誰にも反抗心もあれば、嫉妬心もあるので、此の狀態が、今日の日本の金融資本閥の全盛であると同時に、金貸財閥、即ち金融資本專橫と云ふものに國民の反抗心を有たしたのであると思ひます。

實際、今の財閥位、世間で彼是と言ふけれど、考へて見ると可愛相なものはないのであります。三井の御主人でも、三菱の御主人でも、贅澤なことを少しもない。戰々兢々として我々よりも、みじめと云ふと誤弊がありますが、精神的にみじめな暮しをして居るやうに聞いて居ります。

其處へ行くと云ふと、外國の金持は銀行をやると云つても、たゞ其幾部分の資本を出してゐると言ふ丈で、自分が名乘りを擧げて、何々銀行と言ふやうな、扣な役割をしてゐる人はありません。即ち、これ等の個人銀行も、必ず改革されて、第一銀行のやうに、實際個人のもので

ない立派な銀行に變形する時代が來て、金持は金貸をやるならば、外國流に自分のお金丈で内所にやる。金貸をやらない人は、事業をやる。現在のやうに事業をやる人の大部分は、借金持で、山師だと言ふのではなく、官營を民營に移したこれ等の事業を、ウント盛んにやつて、富國强兵の實を擧げるべき時代が來ることを希望する。

只だこゝで問題とすべきは、金をもうけ國を富ます、その利益金の分配を如何にすべきかといふ點に於て、日本のみが惠まれてゐる國であるから、日本のみが新しい資本主義によつて、其の分配を公平にすることが出來るものと信ずるのであります。西洋では斷じて行なはれませぬ。

十三、歐米に於ける勞資の對抗

何故かと云ふと、御承知の如く、歐羅巴にしても、アメリカにしても、金持はロックフェラーとか、ロスチャイルドと云ふ人は、投資の方法が色々ありまして、それに付て申上げると云ふと、非常に長くなりますから、是も省きますが、日本のやうに、巨額の借金をして金を貸して、さうして威張つて居ると云ふやうな、そんな馬鹿氣たことはやつちやゐませぬ。ロシヤの

やうな革命でなければ、どんなことが起つてもこわくはない。だから何かと云ふと對立です。資本と勞働の對立が、その一例を擧げると、私は聞いた話でありますが、イギリスにゼネラルストライキが起つて、明日どうなるか、石炭がなくなると云ふ風なことで、戰々兢々として居る、其の時、芝居は大入り滿員であるが、イギリスの金持ちは、そんなことは何んとも思つてゐない。何處までも對抗して行く。其の間に、大衆は可愛がる。恩惠は與へる。學校もお前達は、たゞで入れてやるぞ、病氣になれば、お前達はたゞで病院へ入れてやると云ふやうに、設備はあるが、苟くも權利は何んにもない。

教育に於ても、斷じて平等がないが如くに、自由民權などと云ふけれども、それは本に書いてあることであります。

丁度本に書いてあると云ふことの例を面白く私が感じたのを餘談として申上げますと、凡そ本位間違つたものはないと云ふことを發見したのであります。それは本當の話です。其のことを日本へ歸つて本の間違つて居る、本なんと云ふものは當にならぬと云ふことは、成程だと思ひましたことは、私は外國で澤山の百貨店を勉強し、それから娯樂設備の各方面を勉強して來ても、併しこれを實行すれば直ちに利益だと云ふやうなことは一言もしやべらず、どし〳〵獣

つて實行する。筆にもせず演說もしませぬ。正しい議論であるが斯う云ふことは行はれない。何んとかして之を實行せしめたいといふ理想だけが、卽ち議論だけ本になるので、今の滿鐵の株式のお話でも拂下げて民間に渡すだらう。行なはれるだらうといふものならば、默つて大藏大臣に進言する。一寸行はれそうもないから、こゝで演說をするのである。

それと同じに、一つの理想であるやうなことが、本に書いてあるのは、民衆娛樂なんと云ふやうなことが書いてあるから、民衆娛樂と云ふものは、西洋は、さぞ發達して居るだらうと思つて、色々に實見すると、芝居なんと云ふものは、全然ブルジョアのもので、民衆と是位縁遠いものはないことが發見される。民衆のものでないから、色々の角度から、理窟を言ふのであつて、支那で『二十四孝』と云ふ立派な敎訓がある。日本でも親に孝行せよと云ふやうなことは、實は親不孝の子が多いから、さう云ふ本があるのであつて、其の證據には、『子供を可愛がれ』と云ふ本は一つもない。世界中何處へ行つてもない。親に孝行せよと云ふ『二十四孝』があるから、支那は、さぞ孝行の國であらうと思つたらば大間違ひ、それと同じ意味であらうと思ひます。

自由民權と云ふことを、盛んに言ふて居る、勞働問題を盛んに言ふて居る。行れてゐないか

ら言ふて居るので、それを西洋では實行して居るものと解釋して、私はまけないつもりで民衆娛樂といふやうな事業をやりましたが、あちらには日本のやうな立派な民衆の仕事はないのであります。

日本の勞働問題と云ふやうなものも、是は全然本の誤りであると云ふことを發見したのであります。

十四、書物は事實と違ふ

もう一つ本について面白い話は、私は、國際聯盟へ行つて見て、ゼネバへ行つて非常に反感を有つた。恐らく私位、國際聯盟に反感を有つた人はないだらうと思ふ。非常に厭な心持がした。苟も世界の人類公共のため、世界平和のために、あゝ言つた立派な事業に對して、何故私は反抗心を有つたかと云ふと、あすこへ行つて見て、如何に中立國と云ふものが無理であるか萬國公法を讀むと、バランス・オブ・パーワーと云ふやうなことが書いてあつて、國際間には立派な公法がある。斯るが故に、斯う云ふことをすると違反だと云ふやうなことが書いてある。それは、權威のある定義のやうに思つて、かう云ふ間違つたことをすれば、國際法違反になる

と、斯う解釋して居りましたが、歐羅巴へ行つて見ると云ふと、ベルギー、オランダ、ルクセンブルク、スキス、其の他、世界戰爭後に各方面にちつぽこい中立國が澤山出來て、殊にベルギーの如きは、最近迄、日本と同じやうな貿易額を有つて居る。一方には獨逸、オーストリヤハンガリー、食ふに困るやうなみじめな生活をして居る。一方には英吉利や佛國が現狀維持で特權をいつ迄も主張してゐる。丁度武裝して居る人間が赤ん坊を抱いて、此の子は赤ん坊で何にも知らない。さうして、武裝して居らないのであるから、之を殺すことは殘虐である、之に刄向ふのは人道に反するのだと同じやうなことで、此位馬鹿〳〵しいと思つたことはない。

右も近世外交史を御覽の御方は、御承知の如く、歐洲大陸は、國境とは言ふもの〻、いろいろに變つて、甲の國の人民になつたり、乙の國の人民になつたり、國境が變る度每にウロ〳〵してゐる。どこの國も年中、國家非常時で少しも油斷が出來ない。從つて、すべて自分の都合のよいやうに本に書いてあるので、丁度、我々が經濟史を習つて、需要供給、分配と云ふやうなことが動かすべからざる原則だと思つて居ると云ふと、都合が惡いと關稅ブロツク、お前の國のものは買はないぞと、自由貿易は何處へ行つたか分らなくなつてしまふ。

恐らく、將來は、これ迄と全然異つた經濟書が出來ると同じやうに、總て本に誤られて居つ

たと云ふことを深く意識して、自分の都合のよい國際聯盟、人を馬鹿にして居ると云ふ氣に考へて恰度新築中の會館も、案内されましたが、こんな虚僞の殿堂を見て何になるかと云ふやうに反抗心を持ちました。

又、モンテカルロと云ふ國があつて、賭博場がある。其處では、賭博で以て王様が寺錢を取つて居る。それは實に行き築つた、美しい奇麗な國であるが、流石に遊場所であるから、實に立派であるが、ばくち場を守る兵隊が僅かある丈で、軍備の必要もないから國民の税金が要らない。斯う云ふ間違つた人道に反する此の種のものが繁昌して、存在する、こういふものこそ國際聯盟が監視して適當に處決すべきものであるのに、國際聯盟はこの國をすらも中立國として尊重するのであるから、私は非常に反感を有つて、歐洲がかくの如き中立國の存在によつて辛じて維持するといふのは無理である、是はどうしても戰争になる、戰争になるのが當然だ。

何時戰争があるだらうか、是は中々利害關係が大きいのだから、急には戰争などにはなりますまいが、戰争のあることは事實である。必ず戰争があるものだと確信する以上は、日本は戰争などしちや損である。向ふが戰争する迄、待つて居つた方が宜い。さうして、一生懸命に勉強して、外國貿易に依つて、國を富ますより方法はないと考へて來たのであります。

一五、資本家への利益配當の制限

結論としては、先刻申上げたやうに、私は民營論、政府が統制省を拵へますか、何を拵へますか知れませぬが、政府の統制に依る民營に依つて、國民を發展するにあらざれば、我國は人後に落ちると云ふ確信を皆様に御披露して御賛成を得たいのでありますが、恐らく今日の時勢には私の説は賣れないと悲觀して居るのであります。

唯だ問題はさういふことは結局資本家の腹を徒らに肥やすのみである、斯ういふ議論になりますから、私は利益の分配に就て、今迄のやうに放任政策をとらず、單に公共事業に限らず、あらゆる事業に對して配當の制限をする、即ち七朱とか八朱とかに配當制限をして適當に分配の方法を定め、それ以上のものは税金として取上げれば宜いと思ひます。凡そ日本位、資本家の力のない國はない。他人様のことを申上げると申譯がないやうでありますが、例へば私共がやつて居ります電力會社、五大電力といつて日本では大きい會社である東京電燈、大同電力、日本電力、東邦電力、宇治川、この大きな電力會社がありますが、所謂資本家の勢力といふものは何もない、私達當局者が皆やつて居るので、假に配當を制限されるとしても文句を言ふ人

がない。日本位この點に於て、資本家なるものに力が無く、又其の意思を尊重しない國はないのであります。能く世間では資本家が跋扈する、財閥がどうのといひますが、日本では財閥に無理があるから、力が無いので金融業者は洵に貧乏籤を引いて、他人の金を預つて商賣して居るので、金を持つて居る人が仕事しないといふのが日本の實業界の缺點であり、今日のやうな其の經濟機構をこれからどうかしようといふ時代には、長所になつて居ると思ひます。日本では財閥、三井、三菱、住友、安田、皆他人の金で仕事をして居るのでビク〳〵して居ります。其の反對に相當の仕事をして居る事業家は借金ばかりでやつて居ります。これを片付けることはなんでもない、配當を制限して全部民營に移し、大いに勉強して富國强兵の大方針で進むべきものだと信じて疑はないのであります。

—終り—

◇ 編輯だより ◇

◇産業國營、産業統制の問題が叫ばれ、殊に電力國營論が朝野に擡頭して大なる波紋を投げつゝあるとき、日本最大の電燈會社の社長であり、最近歐米各國を視察して歸朝された小林一三氏の所論は、傾聽すべき大いなるものがあると思ひます。氏に乞ふて、本書を公刊した所以である。

◇本社パンフレットは、毎月三回以上不定期に發行します。隨時に起る問題を急速に捉へて、解說する所に特徵があります。全國の鐵道各驛賣店、各書店にて發賣して居ります。地方で賣店、書店に御不便な方は、本社へ直接御購讀を御申込み下さい。

◇『今日の問題』といふ月報を發行致しました。御希望の方は御申込み下さい無代進呈します。

◇本社パンフレットの本年度前半期合本(一月より五月まで)が出來ました。御希望者は本社へ御申込み下さい。定價金壹圓送料四錢です。

産業は國營にすべきか(No. 64) 定價十錢

昭和十一年七月二十日印刷
昭和十一年七月二十四日發行

【有所權版】

著者 小林一三

發行者 伊藤隆文
東京市芝區田村町四丁目十八番地

印刷所 三陽堂 青野印刷所
東京市芝區田村町四丁目二番地

發行所 今日の問題社
東京市芝區田村町四丁目十八番地
電話芝(43)三〇〇七番
振替東京五九七四八番

東京鐵道局會館 鐵道保養會(鐵道各驛ホームスタンド一手販賣)
鐵道弘濟會・鐵道授產會

大取次
森田書房・啓德社
富草新聞店・上田屋・東京堂
新正堂(大阪)
川瀬書店(名古屋)